

住まいの性能は、誇るためのものではありません。真に快適な暮らしを実現するためにあるのです。大切なのは、数値を単純に高めることではなく、快適のための性能をバランス良く考える発想です。

④

木製サッシ
3層ガラス窓

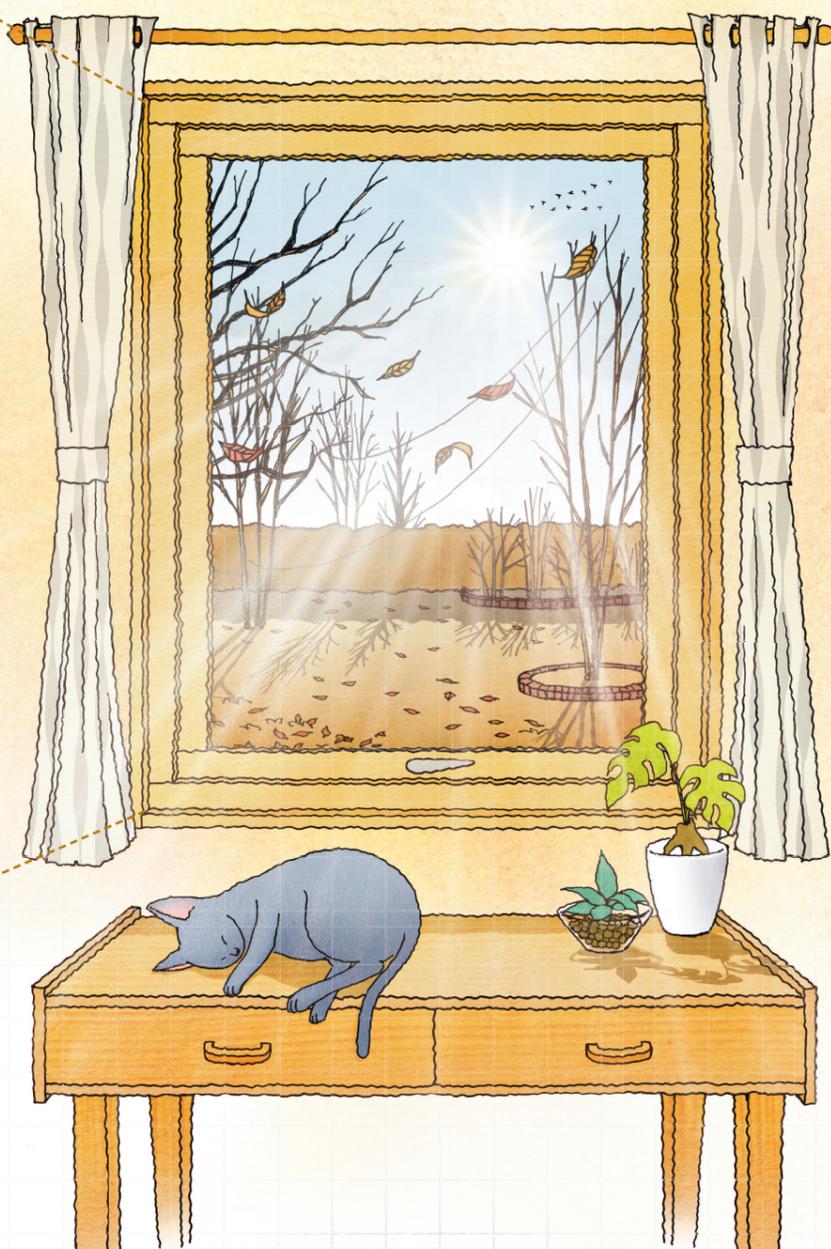


窓の断熱性能を
高めるガラス

スウェーデンハウスは創業当初から基本性能はそのまに、熟成しながら少しずつ進化を続けています。そのひとつが2006年のLOW-Eガラスの標準採用です。

LOW-Eガラスとは、ガラスの表面に非常に薄い金属膜をコーティングすることで熱を伝達しにくくし、遮熱性能と断熱性能を高めたガラスのことです。日射による赤外線・紫外線を反射する効果と、暖房による遠赤外線を室内側に反射する性能を備えています。

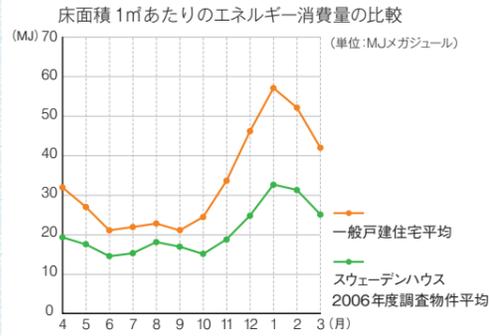
夏も冬も、
イー窓の話。



ひとつくちにLOW-Eガラス窓と言っても、2つのタイプがあります。ひとつは、室外側にLOW-Eガラスを使った窓。これは夏をより重視した「遮熱」タイプで、外からの熱を室内に伝えにくくします。もうひとつは、室内側にLOW-Eガラスを使った窓。これは冬をより重視した「断熱」タイプで、室内の熱を外に逃げにくくします。スウェーデンハウスでは、「断熱」タイプのLOW-Eガラス窓を採用しています。

冬に増える住まいの
エネルギー消費

「遮熱」より「断熱」を重視している理由。それは夏に消費するエネルギーよりも冬に消費するエネルギーの方が多いことが挙げられます。下のグラフは、住まいのエネルギー消費量を月毎に表したものです。一般的に夏よりも冬の方が、エネルギー消費量の多いことがよく分かります。



エネルギー消費量には、冷暖房と給湯が大きく作用します。夏に冷房で35℃を28℃まで下げると、温度差は7℃。一方で冬に暖房で5℃を20℃まで上げると温度差は15℃。冬の方が多くのエネルギーを必要とすることが分かります。さらに冬は外気温と共に水温も下がりますので、給湯に使うエネルギーも増えます。

高性能な窓が支える
心地良くエコな住まい

一年中気持ちの良い居住空間を実現するために、熱の出入りを抑える高性能な窓は必要不可欠です。熱を伝えにくい木製サッシに三層ガラスを組み合わせた窓は、相乗効果により高い性能を発揮し、LOW-Eガラスを使

用することでその性能はさらに向上します。上のグラフでわかるように、スウェーデンハウスは一年を通してエネルギー消費量が抑えられ、特にピークに達する1月においては、その効果は明らかです。

スウェーデンハウスの高い気密・断熱性能と、この窓とのグッドバランスが快適な暮らしを支えています。

*1 Low-Eとは、Low-Emissivity(低放射)という意味です。

*2 一般戸建住宅の標準消費エネルギー量は、日本建築学会発行「日本におけるエネルギー消費」(2006年)より引用しています。